

---

# 星のかけら。

冴草みつな

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

星のカケラ。

### 【Nコード】

N5410E

### 【作者名】

冴草みつな

### 【あらすじ】

　　星のカケラを集めて 散りばめてみました　　好きな少女を励ますのに精一杯の知恵と演技力で臨む少年。やり方は幼稚ですが幼いなりの必死さと真剣さがあります。これは星のカケラ。そう言って取り出したのは ？（07/12/17に投稿したものを連作にしくなつて、改めました）

カケラ。 1 これは星のカケラ。（前書き）

少年にとって夜空に輝く星は 崇めるに値します。

そして 少女も 。

カケラ。 1 これは星のカケラ。

これは星のカケラ。

君は笑うけど

ボクが言っただから間違いはない

あえて真顔で念を押す

なんてことはない

ただの波に磨かれたガラスだけど

これは星のカケラ。

君の笑顔につられそうになるけれど

そう言うてはばかり 譲らない

真顔になる

ここで吹き出してはイケナイ。

なにせ

魔法をかけようとしているのだから

オゴソカにいかなくちゃね。

これは

まごうことなき

星の力ケラ。

君を護り導く星のご加護が得られるよ。

うやうやしく両手で大切そうに受け取る君に託す

星の力ケラ。

君は思いのほか信心深くて

ほほえましい反面

ふと心配にもなるよ。

勝手にごめん。

心の中でこっそりと詫びる

さっそく光にかざして覗き込む君に

仕上げの呪文。

これは星のカケラ。

希望の星は君の手の中だ

これをあえて挑む理由にすればいい

きっと星が導いてくれるから

何の心配もいらなさ。

大切に 愛おしそうにカケラを胸元で握り締める

君の笑顔に

魔法は成功したと魔術師もほほえむよ

ふさぎこむ君も一番に輝く星

あけの明星 宵の明星

君こそがボクの一等輝ける星

道迷う時でも

目指し行けば必ずや導いてくれる

これは星のカケラ。

君こそが

持つにふさわしい

カケラ。 1 これは星のカケラ。（後書き）

踏み切れず己の勇気の無さに落ち込んだり。怖くてためらったり。

そんな時もきつとあなたの側にも 輝く 一等星

どうかその輝きを、見逃したりなんてしませんように。

星の形はさまざまですからね。



カケラ。 2 これが星のカケラ？（前書き）

少女から見た『星のカケラ』です。

カケラ。 2 これが星のカケラ？

これが星のカケラ？

うん。そう？確かに。確かにね。

アナタが厳かに言い切るのならば、疑いようも無い。

そんな疑問符すら浮かんだ事さえも、恥じ入ってしまうがごとき真剣さ。

アナタが言うのならば、間違いないわ。

たとえ、波に磨かれた唯のガラスだとしても。

そう、これは星のカケラ。

波打ち際に流れ着いた、流れ星のカケラね。きっと。

宇宙<sup>そら</sup>の彼方から、星はその最果てともいえる・・・海の底に流れ落ちたのよね。

それとも偉大な魔術師のアナタが天から手繰り寄せたの？

まあ、どっちだっていいけれど。

こつそりとそんな事を思いながら、かざし覗き見るのはアナタの得意そうな笑顔。

ちよつと、心配になるわね。あまりにキレイな心が透かし見えるから。

これは星のカケラ。

それがこうして、こうして私たちの手のひらにある奇跡。

さすが偉大な魔術師でペテン師のアナタ。真顔で言い切れるところ、憎らしいわね。

これは星のカケラ。アナタが授けてくれた、私の道しるべ。

祈り超えて届いた確かな輝き。それはとうの昔から、瞳閉じれば訪れる私の宇宙に一等輝く星。

アナタという一番星。

知っていた？知らないか。

言わなくても、まあいいか。

告げるときは、私も夜空に輝く星の仲間入りをする時でいいですよ。

それまでは胸に秘めて  
う。

輝きを抱えるように、  
駆け抜けて行こ

カケラ。 2 これが星のカケラ？（後書き）

少年が思うよりも、強かそうな少女です。

笑っちゃうしかないよね。その純粹さはさあ。みたいな。（苦笑  
気味）

さて。『星のカケラ』を巡って、繋いで行きます。

お次は誰の手のひらの中に？

カケラ。 3 星のカケラをちょうだい。（前書き）

お次は 小悪魔ちゃんな彼女の手に渡ろうとしています。

『星のカケラ』

カケラ。 3 星のカケラをちょうだい。

愛されているって踏まえた上で

信じているけど

もっとう 乞<sup>こ</sup>う。

いいでしょう？

その愛とやらの手応えが欲しいの

確かな、ね。

わたしはキラキラしたものが

大好きなの

アナタの次くらいにね。      なんてね。

だから ちょうだいな

愛している

その証とやらに。

” お金じゃ買えないもの ”

そんな安っぽい言葉

アナタの口から聞かされたって

しらけるだけだわ

だから

あの彼方に輝く星で

わたしを飾ってみたくはない

ねえ ？

なんて。

そんなことも言ったかしらね

いつだったか

覚えちゃいないけど。



アナタは覚えていたの？

そう　だから

夜空にキラメく星のカケラを

わたしに

わたしに贈りたいというのね

アナタ

いいわよ

受け取ってあげる

アナタからの所有の証

星のカケラ。

いうなればイマシメ？

こんなもので縛られる

わたしじゃないって事くらい

知っていた？

それでも

いいわよ

受け取ってあげる

無数にキラメく星の輝き

それに

勝るとも劣らない

ものがあるって事くらい

わたしだって

わたしだって知っているのよ

知っていた？

さあ

わたしを縛り付ける 鎖イマシメは用意できたのかしら

とびきりの星のカケラとやらを

わたしに

わたしに  
ちょうだい

カケラ。 3 星のカケラをちょうだい。（後書き）

この子はこの子で純粹なんです〜どこが？

彼女は彼氏の困り顔を見たいのです。

気まぐれさをイヤってほど發揮して、振り回されるのを恐れて、先回りしているのです。

対する彼氏も負けず劣らず！

カケラ。 4 星のカケラをやるつな。 (前書き)

小悪魔ちゃんの彼氏さん。

と、  
いうより軽く保護者ぶってますから……………。

#### カケラ。4 星のカケラをやるつな。

『アナタにとって 一等キラキラしたものは 何かしら?』

思いつめた顔をして 何を言い出すかと思ったら 何だよそれ?

まあ いいけど。

ボクにとって一番に輝く星と答えたさ。

そう。

ボクにとって、一番。

輝きの強さだけではなく

ましてや等級で計れるものじゃない。

なぜかしら一番この胸の奥深くまでに、その光射し込む星

それがボクにとって崇めるべき星。

それはいつもこの胸と共にある。

瞳閉じればいつだって、その神秘に触れられるんだよ。

だからそれで 自分を飾ってみたくはないか等と、言い出す君には呆れた

オマエ 人のハナシ聞いてたのか? ちゃんと

この胸と共にある、　　ってえ　くだりのあたりを特にさ。

それはさておき。　何て幼いんだろうと　改めて思った

まだ　そんな　かわいいこと言えるんだな

軽く　衝撃だったよ

いや本気で　君を見直した

だから　記念とでもしておくか？

君にこの星のカケラを贈る。

それはいうなれば所有の証かって

ちがうな

子猫には首輪が必要だろ

ちよろちよろしてて　危なっかしいったら無いよ！　　ないね、  
まったく！

迷子になんてさせるものか

それが保護する者の責任だからだよ  
気まぐれも　わがままも　自惚れも　いきがりも　みなひっくる  
めて

子猫の特徴に数え上げる

ただそれだけ

星のカケラをやるうな

ほうら

おまえの欲しがっていた『キラキラ』したものだぞ。

これを目の前にかざした時の オマエの目玉な

……それこそ とんでもない輝きだったさ。

ボクの崇める星くらいに 射し込む 喜びと期待とに 満ち満ち  
た 眼差し

ずっと そうやって素直でいたらいいんじゃないのか

子猫なんて生き物はさ。

そんな オマエにぴったりの星のカケラ。

言っなれば鈴つきの首輪 それでいいんじゃないのか



カケラ。 4 星のカケラをやるっな。（後書き）

・・・幼馴染のお兄さんの立場、な彼氏。

他の男はイチコロなのにい！

そんな彼女の地団駄が見えそうなくらい、余裕なお人。

さて カケラ お次はどこで輝くでしょうっか

カケラ。 5 星のカケラをお探し下さい。(前書き)

お次は・・・お『じい』さんの手元に・・・？

カケラ。 5 星のカケラをお探し下さい。

アナタ様がこの世にお生まれになった時に

占者による予言もまた成されました

ええ。  
確かに

アナタ様は皇帝なる星のもとに お生まれになった御方

その高貴なお血筋は 疑いようもございませんでしょう。

ええ。  
確かに

え？おべつかはいい、ですと？

左様で。しかし、おべっかなどではございませぬぞ

これは真実にございますから

)  
 •  
 ○  
 •  
 •  
 ○  
 •  
 •  
 •  
 ○  
 •  
 •  
 ○  
 •  
 •  
 )

ちてちてちて・・・そいつそいつ。

下された予言の内容についてで、ございましたね？

そう。確か……

『皇帝となる魂の者に寄り添うべく 一緒に下り落ちた 星の力ケ  
ラがある』

無数で

数多の  
あまた

流星群の中に

ひとつ

アナタ様と共にあるうと意志持つ者の魂

それが

アナタ様が生きるのと 同じ時を選んだ と。

どうです？

心強いとお思いになりませんか？

何と頼もしい

千の民人より

万の家臣より

もつとも強力で頼もしい限りでございませんか？

この、じいは何よりも嬉しく思いましたよ

アナタ様は確かに

まごころとなき皇帝のお血筋

それ故にそれは時として

孤高を誇らねばならぬ立ち位置

無数に輝く群星の中で

ひときわ煌く

軸となるべき

## 皇帝という名の座標

)  
 •  
 •  
 ○  
 •  
 •  
 ○  
 •  
 •  
 )  
 •  
 •  
 ○  
 •

さあ

予言を信じて

アナタ様の  
その  
お隣で

輝くべき星を

早い所 見つけ出してしまいませんか

言うなればそれは

星のカケラ。

それこそが

アナタ様という星の

魂の片割れ

さあ

ぐずぐずせずに

アナタ様のお心の星を捧げるに相応しい

姫を

．．．．．どうやって見つけるのか、ですって？

それは

アナタ様のお心の

羅針盤が指し示す方角に

輝いております事でしょう

．  
．  
．  
．  
．  
．  
．  
．  
．  
．

僭越ながらこのじい！

協力は惜しみませぬぞ。

カケラ。 5 星のカケラをお探し下さい。（後書き）

・・・じいさんは知っています。

彼がもつと強く強く輝く星となるには、その傍らで微笑んでくれる  
強くて優しい女人が必要だと。

早い所・・・星のカケラなる『魂の伴侶』を見つけて下さいよ。

そんなじいさんから、お願いでした。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5410e/>

---

星のカケラ。

2011年10月4日12時28分発行